

【授業科目】小児看護学概論 Introduction to Child Nursing

担当教員	開講年次	選択必修	単位数	時間数	授業形態	実務経験	オフィスアワー	教職員への授業公開
別所 史子、増田由美	2年次前期	必修	1	15	講義	あり	巻末記載	可
授業概要 (内容と進め方) 及び課題に対するフィードバック方法	<p>授業概要／小児看護の理念・役割、子どもの権利、子どもと家族を取り巻く社会環境、及び子どもの成長発達的一般性・共通性と発達段階による特徴を学修し、成長発達過程にある子どもと家族を支援するために必要な基礎知識を修得する。</p> <p>講義形式で、教科書を使用しながら適宜資料を配布して行う。</p> <p>課題に対するフィードバック方法／提出された事後課題に対して、全体の傾向や疑問点についてコメントを述べる。</p> <p>*実務経験を持つ教員が授業を進める。</p>							
授業の位置づけ	<p>本学のディプロマ・ポリシー③「専門的知識・技術に基づき、地域に暮らすあらゆる健康レベルの人々にそれぞれ必要とされる看護を実践することができる」の達成に寄与している。</p>							
到達目標 (履修者が到達すべき目標)	<p>①小児看護学で用いる主要な概念について説明できる。</p> <p>②子どもの人権について説明できる。</p> <p>③子どもの成長発達的一般性・共通性、成長・発達の評価方法について述べるができる。</p> <p>④子どもの発達段階に応じた日常生活援助について述べるができる。</p> <p>⑤子どもを理解するための理論の特徴とその活用方法について説明できる。</p>							
時間外学習に必要な内容・時間	<p>事前学習：</p> <ul style="list-style-type: none"> すべての回において指定の教科書の単元に該当する箇所を事前に読み、疑問点を整理しておく。 発達理論に関しては、発達段階別の授業の基盤となる知識であるため、1年次の人間発達学の講義を含め復習をしておく。(60分) <p>第8回 子どもの権利条約を読み、自身の体験から子どもの権利擁護について各自意見をまとめる。</p> <p>事後学習：</p> <ul style="list-style-type: none"> 配布資料や教科書の該当箇所をよく読み、事後課題による振り返り学習をする。 疑問点は調べて時間外に積極的に教員に質問する。理解できないまま放置しない。(60分) <p>※その他に、講義内容に関連した課題を課すことがある。(30分)</p> <p>※上記時間については、指定された学習課題に要する標準的な時間を記載してあります。日々の自学自習全体としては、各授業に応じた時間(2単位15回科目の場合：予習+復習4時間/1回)(1単位15回科目の場合：予習+復習1時間/1回)(1単位8回科目の場合：予習+復習4時間/1回)を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。</p>							
授業計画	<p>第1回 ガイダンス 小児看護の特徴と理念 (小児看護の対象、目標、子ども観及び小児看護の変遷、子どもを取り巻く社会の状況など)</p> <p>第2回 小児看護学で用いられる概念と理論</p> <p>第3回 小児期の成長発達と看護1(新生児期)</p> <p>第4回 小児期の成長発達と看護2(乳児期)</p> <p>第5回 小児期の成長発達と看護3(幼児期)</p> <p>第6回 小児期の成長発達と看護4(学童期)</p> <p>第7回 小児期の成長発達と看護5(思春期・青年期)</p> <p>第8回 子どもの権利、倫理 小児看護の対象と子どもの権利擁護のまとめ(グループワーク)</p>							<p>1~7回 別所</p> <p>8回 別所、 増田</p>
評価方法 評価基準	筆記試験 90%、講義時に指示する課題 10%で評価する。							
教科書	<p>奈良間美保他著『系統看護学講座 小児看護学概論・小児臨床看護総論 小児看護学①』医学書院</p> <p>中野綾美他著『ナーシング・グラフィカ 小児看護学② 小児看護技術』メディカ出版</p>				参考書等	<p>中野綾美他著『ナーシング・グラフィカ 小児看護学① 小児の発達と看護』メディカ出版</p> <p>医学映像教育センターDVD 『乳幼児の発達と保育(0~5歳児)』 『目で見る子どもの保健：成長・発達編』 『赤ちゃんの一年：前編・後編』 その他、講義中に提示する。</p>		
学生への助言等	<p>皆子ども時代を経験しています。自分が子どもだったころのことを思い出したり、記録を辿ったりしながら学習していくと子どものことが理解しやすいと思います。</p> <p>本科目は小児看護援助論Ⅰ・Ⅱ、実習科目の基盤となる内容ですので、繰り返し学習をして成長発達過程にある子どもをイメージできるようにしてください。理解を深めるために積極的に質問をしたり、調べたりしてください。</p> <p>授業の理解度によっては、講義の内容や順番が変更になる場合があります。</p>							